

防災型コミュニティースクールとして今出来ること ～災害用調理コンロで地域防災、被災地支援を！～

熊本県立八代工業高等学校

7月14日（金）、「平成29年度熊本県立八代工業高等学校第1回学校運営協議会」を開催しました。校長室において、熊本地震における各避難場所（八代市立植柳小学校、八代市立第三中学校、八代市植柳コミュニティセンター、本校）の状況報告、避難所運営マニュアル（避難所の運営、避難者への配慮、各避難所との連携及び情報共有等）の作成について、熊本県避難所運営マニュアルモデルや八代市地域防災計画をもとに協議しました。学校運営協議会の閉会后、本校機械科ピロティールームにおいて、大規模な災害が発生した場合に、ガスや電気を使わなくても温かい食事が取れるよう、本校機械科3年生が製作した調理コンロ（ロケットストーブ）を用いて避難食の調理を中華料理「太楼」に依頼し、避難食の試食を行いました。



図1 協議会の様子



図2 避難食の調理



図3 ロケットストーブ

8月8日（火）、その調理用コンロ2基を地元植柳校区住民自治協議会と被災地支援を行っている中華料理「太楼」に寄贈しました。調理用コンロ（ロケットストーブ）をつくることになったきっかけは、「太楼」代表の武部小太郎さんが被災地支援で炊き出しを行おうとした際に、電気はストップし、ガスボンベも使用できず、支援に困られた経験があったということで、電気やガスを使わなくても温かい食事が作ることができる調理コンロはできないだろうかと本校機械科に相談があり、ロケットストーブの製作を本校機械科3年生が課題研究の時間や放課後等を活用して行いました。



図4 記念撮影①



図5 記念撮影②

生徒たちは、今回の製作過程で様々な課題を解決しながら、災害で困る人たちのために一生懸命工夫をしながらコンロを作り上げることができました。この経験を生かして、将来、人のために役立つことを考える人財（じんざい）を目指して欲しいと思います。